

## パネルディスカッション

次世代を担う高校生と、日本 YEG（会長・全国大会会長）や専門家がパネルディスカッションを行い、今後どのような地域・組織が選ばれていくのか、社会保障制度等の課題について多角的に議論します。高校生ならではの率直な視点を取り入れることで、男女共同参画や多様性推進の現状をより深く理解し、多様な価値観に触れながら、社会の仕組みが抱える課題や背景への理解を深めていきます。この対話を通じて、高校生の想いや考え方、次世代の声を聞くことで、誰もが活躍できる地域・組織作りにつなげていきます。



ファシリテーター  
小安 美和



令和7年度日本Y E G会長  
小野 知一郎



全国大会会長  
中川 誠



担当常務理事  
下村 亜希



伊勢崎市立四ツ葉学園中等教育学校  
高校生

### ファシリテーター・参加校紹介

**小安美和（こやすみわ）氏** 現職：Will Lab 代表取締役

日本経済新聞社等を経て、2005年に株式会社リクルートへ入社。2013年にはリクルートジョブズ執行役員を務め、2017年に株式会社 Will Lab を設立。兵庫県豊岡市、富山県南砺市、宮城県気仙沼市などで、職場や地域のジェンダーギャップ解消をテーマに自治体・企業と連携し、政策推進や人材育成に取り組む。内閣官房「地域働き方・職場改革等推進会議」構成員。NHK「あさイチ」「日曜討論」「クローズアップ現代」などメディア出演も多数。共著に『若者・女性の流出問題に取り組むー7万4,000人が暮らす小さな行政の組織改革』（生産性出版）がある。

#### 伊勢崎市立四ツ葉学園中等教育学校

伊勢崎市立四ツ葉学園中等教育学校は、6年間の一貫した学びを通して、未来を担う人材を育てる公立の中等教育学校です。

「自学・自律・共同・共生」を大切に、生徒一人ひとりが主体的に学び、多様な価値観を尊重しながら成長できる教育環境を整えています。

学校では、探究活動や地域連携の学びを通じて、SDGs（持続可能な開発目標）への理解を深める取り組みを積極的に行っています。環境問題や地域課題に向き合う学習を取り入れ、生徒が自ら考え、行動する力を育んでいます。また、男女共同参画の視点を重視した教育にも力を入れており、性別にとらわれず誰もが活躍できる社会を具現化した学びを推進しています。多様性を尊重し、互いを認め合う学校文化は、生徒たちの豊かな人間性を育てる土台となっています。四ツ葉学園は、地域とともに歩みながら、未来の社会を支える若者が伸びやかに成長できる学びの場として、これからも新しい教育に挑戦し続けています。

## これまでの日本 Y E G の取り組みと成果



令和7年度日本Y E G  
相談役（初の日本Y E G  
女性会長）

木村 麻子



NY 国連にて VNR が発表



日本 YEG は、令和3年に「サステナブル宣言」を発表、環境に配慮した循環型経済・多様性を包摂した、持続可能な地域と組織づくりを目指しサステナブル推進活動を継続してきました。

例えば、CO<sub>2</sub>削減の見える化・フードロス削減を推進する15:10運動や、リサイクル推進や、選ばれる地域、組織づくりに欠かせない重要テーマである『男女共同参画』の推進にも力を入れており、令和5年度には全国の経済団体として初の女性会長の輩出、全国の女性役員育成や女性活躍事例集の発行、国際女性デーへの参画など、多様な人材が活躍できる組織づくりを牽引してきました。

そして2025年7月、年度を超え継続してきた YEG の取り組みが NY の国連において、日本政府が発表した VNR（自発的国家レビュー）にも掲載されるなど、地域を担うリーダーたちの先駆けの取り組みとして高く評価されました。

日本 YEG は、地域の未来を支える青年経済人の力を結集し、持続可能な社会づくりに向けた実践をこれからも広げていきます。

## 令和7年度サステナブル男女共同参画研究会 単会サステナブル宣言発表

全国の単会が学び合いながら策定した「単会サステナブル宣言」を、全国の単会に向けて発信する場としています。これは、令和3年度以降の取り組みの振り返り、地域・企業・単会の先進事例の学習、課題分析、リーダーズ研修会での議論を重ねてつくり上げた、研究会の成果となっています。

発表の場では、参加単会が自地域の課題に基づいてまとめた「単会サステナブル宣言」を共有し、各単会が未来に向けた具体的な行動を宣言し、YEG 全体として男女共同参画を推進する新たな一歩を示します。

この発表は、単会の意思表明であると同時に、全国の仲間とともに多様性を尊重し、誰もが活躍できる組織づくりを進めていくための重要な契機となります。

